



## 【人生の課題を乗り越えて進む為に】

今日の聖書本文:ヨシュア記3章1-11節/今週暗唱聖句:へブル人への手紙11章1節

説教者: 鄭南哲牧師  
(Rev. Jung nam\_chul)

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん、一週間もみんなお元気でしたか。コロナ感染拡大は徐々に落ち着いて来ているのは何より感謝ですが、まだ30度以上の厳しい残暑の暑さが続く中、朝晩の温度差も激しくなっています。今年クリスチャンプレイズチャーチの目指すゴール、目標は「変化と回復」です！今年もコロナ禍の中であっても共に前進するように！勝利して生けるように望んでいます。キリストを信じる者は、キリストのうちに根ざし、キリストと共に日々進み行き、キリストのように益々変わって行く者であると信じます。

しかし、今年もここまでの人生の歩みを振り返って見ると、家庭の中、牧場の中、職場や日常の生活中で思わぬ、我々の足を止めさせ進めないように、恐れ、不安にさせ動けないように、今のままでずっと変わらず、諦めてしまうようにさせようとする時があります。アルベルト・アインシュタイン博士は“人生の中で失敗する多くの場合には、あきらめてしまうその瞬間、自身が成功にどれほど近くにいるのか知らないからだ。”指摘しました。

愛するみなさんはいかがですか。今年中にもどうすれば、我らの前に現れる様々な人生の難関や障害物乗り越え、突破し、貫いて進んで行けるでしょうか。

今日の聖書の本文、ヨシュア記を通してそれを学びたいと願います。

今日の本文の内容は、エジプトから出て、40年間という長い荒野での旅の中様々な難関や戦いを乗り越えて、ついに神様の約束された目的地であるカナンを目の前にいるイスラエルの民たちの状況であります。彼らがカナンの地に入るといことは夢の成就であって、目標の実現を意味でしょう。ところが、今日の前に流れているヨルダン川は子ども女性含め約100~150万人を越える多くのイスラエルの民たちが渡るのに、容易くありません。カナンに入る直前、また大きな課題が現れます。ヨルダン川は彼らが最終的な目標を実現させるため、乗り越えて渡らなければならないの課題となっていました。

今日はこの本文を通して、ヨシュアとイスラエルの民が結局あの岸いっばいに流れているあのヨルダン川(「ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこの川岸にも水があふれていた。(ヨシュア記3章15節)」)をどう渡ることが出来たでしょうか。

以前約40年前エジプトの奴隷であったイスラエルの民たちを救うために、流れている葦の海を止めさせ、海を分かれさせ、渡らせたように、今回も神はどうヨルダン川を渡って進み続けるべきなのか、教え助けてくださいます。

旅人のような人生の中で、自身の力で背一杯頑張れば、乗り越えられる事もあれば、自身の力では限界でどうしようも出来ず、戸惑いつまづいてしまっている時も多くあるのではないのでしょうか。

その時、どうすれば、我々も生きておられ、共におられる全能なる神の助けと御業によって乗り切る事が、渡る事が出来た事が出来るでしょうか。今日の本文でその理由は何でしたか。今日も私たちは神の助けを、神の御業を体験する為のどうすれば良いのかその原則を共に学んで、その通りにやって見たいと思います。

目の前にある課題であり、障害物であったヨルダン川を渡るためには、

**①最優先に神との時間を保ち、神の助けを頂きながら、最善を尽します。**

本文1節を見ると、「ヨシュアは翌朝早く起き、」という言葉で始まっています。この表現はただ、彼がある日、偶然早く起きた単純に考えてはいけません。ヨシュア記を読んで見ると、この表現はとっても強調しながら、大切な意図をもって繰り返されていることがわかります。「翌朝、ヨシュアは早く起き、祭司たちは主の箱を担いだ(ヨシュア記6:12)」、「翌朝ヨシュアは早く起き、イスラエルを部族ごとに進み出させた。(ヨシュア記7:16)」、「翌朝ヨシュアは早く起きて、兵を召集し、イスラエルの長老たちとともに、兵の先頭に立って(ヨシュア記8:10)」

ヨシュアが年老いて、朝の睡眠が浅くて起きたと考えてはいけません。まずは、ヨシュアは指導者として、神様からの使命を頂いた者として、責任を十分に果たすために、だれよりも、自分の最善を尽す、勤勉で誠実な姿が現れます。

ヨシュア記1章を見れば、ヨシュアの前の指導者であったモーセが召されました。イスラエルの民を今まで導いて来た指導者が亡くなったわけです。モーセの従者(じゅうしゃ)だったヨシュアが新しい指導者として神に選ばれた時、彼は今まで仰ぎ見ていた指導者のモーセの後を継いでイスラエルを導いてカナンに入らせなければならない課題を目の前にしていました。

そのヨシュアに神様は、先日ヨシュア記1章3節でこう約束しながら、仰せられました。

**「わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく、すでにあなたがたに与えている。」**

必ず約束の地まで導き入れ、与えて下さるという確実な神様の約束でした。しかし、神様が備えてくださった地なのですが、ただで入るようにされたのですか。違います！**それが確かな神様の約束にもかかわらず、神様はその約束の地に入り、所有するために、ヨシュアはイスラエルの民たちとともに前もって自分たちが出来る最善を尽くし、万全な準備をするように準備をしていたところに注目しなければなりません！**

世界第二戦争が始まった時、イギリスの国民は深い絶望と敗北感に捕らわれていました。この時イギリスの63代首相だった

ウィンストン・チャーチルさんがイギリスの議会で、国民に向けて語ったあの有名なメッセージがもう一度イギリスの国民を戦争を恐れず、力を合わせて奮い立たせるきっかけになったそうです。その内容をまとめるとこれでした。

「愛する大英帝国(だいえいていこく)の国民のみなさん、我々はもはや古い時代を後にして、新しい時代を迎えるための最後の戦いを目前にしています。これはかならず勝つべき戦いであり、我々はかならず勝てます。我々は海岸でも、町でも、野原でも、丘でも戦い続けます。我々は我々の国を守ります。しかし、我々の祖国を守り切るために、新しい世紀を開くためには代価を払う覚悟をしなければなりません。今は我々のあせ、我々の血、涙、そして我々の最善を民族のために尽くす時です。その時神は我らを助け、必ず勝利を与えて下さると信じます！」このメッセージがまさしくイギリスの国民を新しい決意と新しい準備に入らせる切っ掛けとなったということです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん!私は若い神学生ごろから大事に心に握っている座右(ざゆう)の銘(めい)があります。「**神は必ず準備された人々を用いて下さり、準備された分用いて下さる**」と言う事です。

偉大な夢とビジョンは代価を払わずに、かなえられません!神の約束が成就されるように蓄える我々の器であっても、そう用いられるために、その分整えられておかなければなりません!だれでも、汗と泣きながら、種を熱心に蒔いた人に神様は収穫の時期に、その分の多くの借り入れが出来るように必ず祝福して下さい。

いくら神様が必ず、カナンの地に入れるように導いて下さると信じる人は、ただ、何もせずにじっと座り込んではいけません。彼らが渡らなければならないヨルダン川に、彼らは最善の準備と努力に力を尽くして取り組んだ時、主は助け、神の御業を、神の奇跡を起こして下さいを忘れないで下さい。

今日ヨシュアは、主から与えられた約束を確実に信じていたため、だれより早く起きて、自分が出来る最善を尽くして備えていた姿がこれからのクリスチャンプレイズチャーチの私とみなさんの姿であるように主の御名によって祝福します!

しかし、ヨシュアはよく意図的に朝早く起きたのには、ただ準備し、努力するぐらいより、もっと大切なことを行っていたことを聖書は暗示させて下さっています。

「**ヨシュアは翌朝早く起き(1節)**」という言葉の深い意味には、**まず神との関係を最優先し、自分の最善を尽くす前に、神との交わりを大事にしていた事も分かります。7-8節「7主はヨシュアに告げられた。「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである。8あなたは契約の箱を担ぐ祭司たちに『ヨルダン川の水際に来たら、ヨルダン川の中に立ち続けよ』と命じよ。」**を見ると、**ヨシュアは朝早く起きて、まず、神の御心を知ろうとし、神の御言葉を聞き、その後、ただ神の御言葉通り従って行っていた事が分かります。**

ヨシュアはヨルダン川を渡る相応しく、万全に、最善の準備が出来たのは、ただ自分の経験上の考えやアイデアではなく、毎日、神様との時間、神と会話意を保ち、交わるのを最優先にして、日々をはじめようとしていたことが分かります。

ですから、ヨシュアは朝早く起きたのは、ただ勤勉で、誠実な彼の性格、態度より、いつもまず、神の御声を聞こうと、今日のやるべき事、今日優先にすべきことを、神から確かめ、神に指導と導きを求めようとしたため、だれより早く起きたのが分かります。言い換えると、ヨシュアは自分の限界をよく知っていたので、認めていたので、神の力と知恵に頼ろうとしたのではないのでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!みなさんは毎日をどのように迎え、はじめているのでしょうか。

みなさんは起きると、まず何をしますか。音楽をつけますか。テレビをつけますか。運動をしますか。新聞を読みますか。携帯を開きますか。ヨシュアのように、だれより早く起きて、まず神様との時間、神様と向き合い、交わりをし、神の御言葉を通して今日私に向かむ神の御心を悟り、祈りを持って、今日もわたしが行くべき道を、行うべきことを、実行すべきことを主が示し、教え、それを全う出来るように神の助けを求める時を、みなさんの毎日保っているのでしょうか。

「ヨシュアはだれよりあまりにも忙しい過ぎたので、だれよりもっと早く朝起きらなければ、毎日神様との時間を確保するのは難しかったので、早く起きたのではないのでしょうか。それほど、毎日ヨシュアにとっては、神様との関係、神様との時間が譲れない、最優先の大切な時であったことが分かります!

願わくは、この9月から毎日の早天の 때가、奇跡のように神の素晴らしい恵みと力を頂ける毎早朝となりますようにお祈り申し上げます!

イエス様も似ている御教えを弟子たちに語って下さいました。

「**わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることもできないのです。7あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何も欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。(ヨハネの福音書15章5-7)**」と意味は **豊かな実を結ぶクリスチャンになる秘訣は、ただ、自分の努力によるのではなく、神に、主イエスに、ただぶどうの木であるキリストに我々がとどまっている(つながっている、くっついている)時こそ、多くの実を結ぶ事が可能であるという神の約束**です。

生きておられる神様は今も御言葉を通して、私たちに語りかけてくださるのです。祈りということは、私から神に求めることだけでは



なく、神との会話であり、そのことによって神と私がコミュニケーションすることですので、御言葉と祈りとは、神と私とのコミュニケーション。コミュニケーションがあるということは、今、私が神の中にとどまっているしである事を今年も忘れないようにしましょう。このようなキリストとの交わりによってキリストにとどまる事ができます。

今日ヨシュアは目の前にある課題を解決し、乗り切るために絶対的な神の力と助けが必要である事を信じ、まず、神との交わりを朝早く起きて保ちながら、その後、イスラエルの民と共にヨルダン川を渡って行くための準備に最善を尽くす！

この姿こそ、神に用いられ、神の約束が我らを通して成就され、体験出来る道である事を共に残りの下半期に覚えて実践しましょう。

目の前にある課題であり、障害物であったヨルダン川を渡るためには、

②目の前ヨルダン川ではなく、神のみに集中し、フォーカスを合わせながら進みます。

「民に命じた。「あなたがたの神、主の契約の箱を見、さらにレビ人の祭司たちが、それを担いでいるのを見たら、自分のいる場所を出発して、自分のいる場所を出発して、その後を進みなさい。」(ヨシュア記3:3)

ヨルダン川が目の前にあって、渡らなければなりません。その民に神様は契約の箱を見て、また動くようにと命じられました。イスラエルの民にとって、この契約の箱はとっても大切な意味を持っていました。この契約の箱は神ご自身と神様の臨在の象徴でした。この神の契約の箱をかつぐ祭司たちの位置は先頭でした。いつも一番前でした。神の契約の箱を一番前にしてついでいくということはどんな意味ですか。主が我らより先に行かれる。つまり主が先立って導いて下さるという意味です。

“その契約の箱を見てついで動きなさい”ところが、そこに付け加えられた警戒がありました。

4節です。「あなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたは今まで、この道を通ったことがないからだ。

ただし、あなたがたと箱の間に約二千キュビトほどの距離をおけ。箱に近づいてはならない。」

不思議なのは、その契約の箱に近づいてはいけないと言われたことです。なぜだったのでしょうか。

今荒野を通して来たイスラエルの民の数は少なくありません。ある聖書学者によると、およそ100万人以上、約150万人ほどだったのではないかと推測しています。こんなに大勢の人が荒野を通る時、もし、契約の箱をすぐ前に配置したなら、どんな問題が起こるのでしょうか。前のいくつかの列を除いては後ろにいる人々にはこの契約の箱がまったく見えなかったでしょう。

そういうわけですから、契約の箱に近づかないで、離れた距離、つまり契約の箱をかついで行進している祭司たちと民たちの間を二千キュビト置くようにと命じられたのです。それは1キロメートルくらいです。なぜでしょうか。

その理由は一つです。すべての民が契約の箱が見えるように、みんながいつも神の焦点を合わせながら、行進して行けるためでした。

ある人たちは目の前にあるヨルダン川ばかり見ていた人なら、川が近づけば近づくほど、勇気を失い、ますます不安になって目の前に見える課題、障害物である川を渡ることをあきらめる人たちが出たかも知れません。しかし、この大切な行進を目の前にして主は命じられました。“契約の箱を見なさい。”それは目の前の流れるヨルダン川ではなく、ただひたすら神のみをみあげなさい！神のみに焦点しながら、神の飲みこみにフォーカスを合わせながら、進み行きなさい！と言うことです。

我々より先立っていかれる人生の主なる全能なる神だけに見上げ、従いなさい！あなたを救い出し、今まで、ここまで導いてくださった神のみに焦点を合わせなさい！というメッセージだったのです。

みなさんは最近どちらの方を見つめているのでしょうか。みなさんの心と目は最近どちらを向いているのでしょうか。

神のみを見上げる人は、このヨルダンを渡る前に、自分を聖くするようにと命じられました(5節)

5節「ヨシュアは民に言った。「あなたがたは自らを聖別しなさい。明日、主があなたがたのただ中で不思議を行なうから。」

ヨルダン川を渡る前にイスラエルの民はみな神様に聞きたかった内容は、おそらくどうすれば、ヨルダン川をもっと容易く、簡単に渡れるか具体的な方法だったと思います。どうすれば、身の回りのことが順調にすすむのか。自分の悩みと問題が簡単に解決できるか。我々も同じくこの質問に関心を持っています。しかし、神様はそれよりか、むしろ、それらのこととは関係のないことを要求されています。“あなたがたの生き方を変え、神の民らしく、きよめなければならないのだ”です。

つまり、ヨルダン川を渡る準備より、あなた自身がまず神の民らしく備えられて置かなければならないとの意味です。

神様はきよい器を用いるからです。神様が使えない器はありません。御国では大きい器、小さい器、みなが必要です。しかし、どんなに金、銀で作られたものであっても中身が唯一、汚れた器は使えません。“自分の身をきよめ(区別された者として)なさい。”神様は我々にもこう語っておられます。「あなたがた聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」(第一ペテロ 1:16)

主は言われます。「自分の心、身、考えを整え、きよめなさい！」これこそ、神の民たちである我々に、そして我々の教会に向っての命令ではないかと思えます。他の人や目の前にあるヨルダン川を渡る課題が重要ではなく、神様はまず我ら自身が整えられ、神の人として相応しく準備できる事を望んでおられました。

神様は成功より、我ら自身をもっと大切に、関心を持っておられます！

次についてくる約束をみてみましょう。神様の御前で自分をきよめれば、「主が、あなたがたのうちで不思議を行なわれるから。」つまり、あなたがたがきよくすれば、わたしは不思議な奇跡を起こそう。ほかは心配しなくても良い。なぜなら、わたしが責任をとるから。と約束されます。そうです。我々が神様の御心にかなった人になれば、ほかすべては神様がしてくださるのです。私たちが生活の純潔を守って行く時、我々は神様に用いられ、神様も我々がヨルダンの川を渡るように助けてくださると信じます。

### ③信仰によって踏み出し、踏み入れる(信仰の行進と全進)

ヨルダンを渡らせるために神はもう一つ命令されます。信仰によって前に進みなさい。信仰の行進を命じられます！「**ヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じた。そこで彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。**」(ヨシュア記 3:6)

契約の箱をかついで民の前に進みなさい。ヨルダン川を渡るようにと命令されました。しかし、一つの問題があります。ヨルダン川の水が乾いたときではなく、川がざぶりざぶり揺れ動き、川が溢れる時期だったことです。もし、みなさんが神様だったのなら、愛する民たちがヨルダン川を渡る時期をいつにしたと思いますか。雨が降らない季節、ヨルダン川が乾いていた季節だったのならどれだけ良かったでしょうか。しかし、とって興味深い事実がもう一つあります。**15節「箱を担ぐ者たちがヨルダン川まで来たとき、ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこの川岸にも水があふれていた。ところが、箱を担ぐ祭司たちの足が水際の水に浸ると」**です。当時は3-4月くらいの時期で、凍っていた川も溶け、水の多くなる、一番ヨルダン川を渡りづらい時に渡るようにと命じられたのです。それは大きなチャレンジです。波がざぶりざぶり打ち寄せています。何一つ渡れそうな要素はありませんでした。なのに、神様は命じられます。**“神を信じ、私の約束を信じてヨルダン川に進みなさい。”**

**まだヨルダン川は岸いっぱいまであふれています。問題は消えず、いやさらに厳しくなっていたかも知れません。**ここで、“神様、従って見たいですが、現実私の前には特にさらに悪く、川の水が溢れていますから、もうこれ以上行けません。”と答えなくて、**主が命じられるのには、それなりの理由があるだろう。神様だけを信じて、まだあふれているヨルダン川に向って、はじめの一步を踏み出し入れた時に、(以前モーセを葦の海が分かれた時とは違う。)川が分かれみんな渡ることが出来たのです。**

**愛するみなさん！イスラエルの民は40年間も荒野で訓練されて来たので、神はどんなお方であるかよく知り、信じているはずです。神様は、ここで、信仰の一步を踏み出し、踏み入れるか、信仰によって、踏み出せば、ヨルダン川は、せき止められる神の助けと神の御業を体験できるようになります！我らは真に生きておられる神の助けにより、信仰の通り障害物を乗り越えさせる神の力を体験する事が出来るでしょう。**

みなさん!これこそが信仰であり、信仰の行進ではないでしょうか。問題は我々の前にあります。しかし、神様は前に進みなさいと命じられます。主だけを信じます。私にはこの問題への解決がありません。しかし、全能の神様だけを信じて行きます。賛美しながら行きます。私はただ私より先に行かれる神様のみを信じます。と祈りながら進む時、自分の前に置かれている障害物が解決される奇跡をみると信じます。これがまさに聖書からの教訓なのです。**「さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル人への手紙 11:1)」**信仰は見えないものを見れるビジョン(vision)であります！

今私たちの前にある渡るべきヨルダン川のような難関、問題、課題、妨げなどは無いですか。今みなさんを不安にさせていることは何ですか。今日ヨシュアとイスラエル民たちのように、私たちにも神様が我々のために備え約束された祝福、素晴らしい計画がすでにあります。今も与えようとしておられる事を信じてください。神はみなさん一人一人を愛しておられ、素晴らしい人生の計画を持っておられます。今現実的にいろんな問題でみなさんに至るべき向こう側がまだ何も見えない時があるかも知れません。しかし神様は、我らが全進できないように、ずっと無気力で恐れながら、みなさんをとどませようとする障害物を必ず乗り越えさせ、渡るように助け、導いて下さるお方であることを信じましょう。

目に見えるものにみなさんの心と期待を置かないで、目に見えないですが、信仰をもって神にみなさんの希望と望み、生きる目的と人生の目標をおいて見て下さい！

我々一人一人に、そして我々の主の教会に対してかならずついにすべてを乗り切って、貫いて祝福の約束のところまでに入れさせて下さると信じます！下半期の残りの今年も主の御前でみなさんが神様を信じる信仰の目で見ている通りにかならずその通りにさせて下さいます！止まらないで信仰を立たせ、信仰によって進みましょう！信仰によって踏み出し、踏み入れ進んで行く時に、みなさんを通して神の御心が成され、実現されると信じます！今月、今週、毎日が新たに信仰の行進、信仰の全進となるクリスチャンプレイズチャーチのすべて神の家族となりますように  
主イエスキリストの御名を通して祈り、祝福します。アーメン！

